

令和6年度 東京都立田無特別支援学校 学校経営計画（田無スクールプラン2024 最終報告）

I 目指す学校

「地域型特別支援学校として、生徒の可能性を引き出し

豊かな社会生活に向けて、生きる力を育む学校」

プラン1【学習指導の充実】◆学習指導

② 重点目標と方策

【3月は◎、○、△、×も記入】

※◎：目標100%達成 ○：70～90%程度達成 △：40～60%程度達成 ×：30%以下達成

方 策	担当者→対象教員等	目 標	10月状況	3月結果
1 人権教育研修会を実施（いじめや体罰の問題を行い、児童虐待問題を重点的に行う）する。	副校長、主幹教諭 →全教員	年間3回実施	年間予定のとおり現時点で、2回実施した。	◎いじめの重大事態の共通理解等教員の意識を高めた。
2 体罰、不適切な指導、不適切な言動及び性暴力等の服務事故「0」とする。	全教職員	体罰、性暴力等の服務事故「0」	7月に体罰、性暴力等の服務事故防止・コンプライアンス研修を実施。体罰、性暴力、不適切な指導等は「0」である。	◎体罰・服務事故防止研修の実施や年間をとおして職員連絡会、職員朝会なども活用し、繰り返し注意喚起を行った。
3 教室等学習環境（学びの場）を整備し、個に応じた教育環境（環境の構造化等）を充実させるとともに、生徒が主体的に学習環境を整備できる力を育成する。	教務部・外部専門員→主幹教諭・コーディネーター→教科担当、学年・担任	環境整備計画を作成し、学期1回以上、環境整備の状況を把握し、改善する	昨年に引き続き、各学期初めに、教員による構造化された環境整備を進めている。各週末には、生徒による環境整備チェックを行っている。	◎教員、生徒による教室環境整備を進め、教室環境が整った。
4 全学年で、授業などにおいてヨガや呼吸法など心と体を整える取組みを推進する。（体育健康教育推進校）	体育学習部→各学年	保健体育で1回以上研究授業の実施。実践の中間まとめとなる公開授業の実施（1月までに1回）教員研修を年4回以上実施	8月に教員向けの研修会、10月には、講師による特別授業を実施した。また、11月に指導部訪問にて中間報告を行った。	◎保健体育科の授業内に効率的に取り入れ実施できた。また、2月には体育健康教育推進校として中間報告を実施した。
5 外部専門員を活用し、図書館、図書コーナーを充実させるとともに、読書活動・言語活動を充実する。	国語学習部担当、コーディネーター、非常勤教員、（外部専門員）	図書の貸し出し年間150冊。11月校内ポップコンテストの実施。	昼休みを中心に貸し出しを行っている。9、10月は国語を中心にポップコンテストに向けて作成を進めている。	◎外部専門員の指導の下、図書館、図書コーナーを充実することができた。ポップコンテストも多くの生徒が参加した。

6 個別指導計画等を基本にPDCA(計画-実施-評価-改善)サイクルを確立する。	支援部→全教員	保護者アンケート肯定率 90%以上	面談などをとおして保護者に開示し、共同して個別指導計画を作成している。次年度に向け、評価欄の改善を検討する。	◎PDCAサイクルにのっとり、各指導計画の改善に努めた。
7 花等植物について学び、校内で生き生きした花や緑(草木等)を育て、明るい学校作りを推進する。	作業学習(農園芸班)担当	通年とおして、校内に花や緑(草木等)をディスプレイする。	校門前の花壇の整備を行い、順次、植え替えを行っている。農園芸班で栽培している。	◎春冬用の植物を育成中。年間をとおして計画的に植物を育成し飾った。
8 外部専門員の助言を受け、Vineland-II・J☆Kep・TTAP・WISC-IV等の生徒のアセスメントを行い実践に生かす。	支援部、研究部、進路指導部→全教員	130 ケース以上アセスメント実施	Vineland-IIは全校生徒130 ケース以上を外部専門員の助言を得て実施した。	◎それぞれのアセスメントを実施し、外部専門員の助言を受けながら、効果的に活用できた。
9 全教員が一回以上の公開研究授業を行い、生徒の学びの質を高める授業改善を推進する。 (「主体的・対話的で深い学び」「自立活動」「学習評価」等学習指導要領の内容を取り入れた授業の推進)(思考力・判断力・表現力を養う授業の推進)	研究部→全教員	1月までに全教員が公開研究授業を1回以上行う。他の教員の研究授業を参観し、意見交換を行う。	全教職員が研究授業の日程を入力した。3観点を念頭に指導案を作成して研究授業を実施している。参観した教員と意見交換ができています。	◎全教職員が研究授業を1回以上実施し、参観者から助言を受けて、授業改善を行うことができた。
10 初任者、2年次、3年次、中堅教諭等資質向上研修対象者は研究授業を実施し、授業改善を行い授業力の向上を目指す。	研究部、初任者、2年次、3年次、中堅教諭等資質向上研修	公開研究授業年3回	年次研修者の研究授業を計画的に実施し授業力向上の成果が見られる。	◎年次研修者の研究授業が終了した。授業の振り返りで学びとなった。
11 外部専門員等を活用し、主任教諭及び教諭等の授業力や指導力の向上を目指す。	外部専門員→研究部	外部専門員による主任教諭・教諭へのアドバイス年間8回実施。	外部専門員の授業の助言をいただき、教諭の指導力向上の成果が見られる。	◎授業の助言を受けることで、授業力や指導力で成果が見られた。
12 改編した類型化教育課程を検証し、課題について方策を立て、改善する。(指導部研究指定校)	教育課程検討委員会、教務部、各学年	11月までに令和7年度の類型の方針についてまとめる。	都の検討委員会を受け、今年度の類型、教育課程を継続することを決定した。	◎次年度の教育課程を作成し、それに基づき類型の編成を行った。
13 情報教育、デジタル教育、教育DXに関する研修を実施し、教員の専門性を向上させる。また、各学年でプログラミングに関する授業を実施し、生徒のプログラミング思考を豊かにする。	情報教育部→プログラミング教育担当教員、全教員	春季及び夏季に情報教育の研修を合計2回以上実施する。プログラミング教育の授業を各学年で実施する。	休業中の研修は実施できなかったが、職員連絡会で情報教育の研修や周知を実施している。	◎ICT機器の研修を実施できた。プログラミング教育は、生徒の実態に応じて実施できた。

14 一人一台端末を積極的に活用し、利活用の状況を集約する。	全学年、情報教育部	一人一台端末を活用した実績を集約する。(10月中旬、3月最終状況を確認)	1年生の端末配布時期が遅かったため、活用実績は現在集約中。	◎様々なアプリを活用し発表資料や動画の作成に多く利用した。来年度は更に活用の充実を図っていく。
15 「学校2020レガシー」に基づき、オリパラ・スポーツ(アスリート交流等)、環境教育、国際理解教育、外国語(英語等)、芸術教育、日本の伝統文化の教育を実施し、レガシーとなるよう進める。	全学部	各学年1回以上実施。アスリート交流など年間1回以上実施	6月に、アスリート事業によるパラスポーツの授業を実施した。11月には、スポーツ推進事業による特別授業を実施する。	◎1月にプロ野球選手との特別交流会を実施するなど、年間をとおして、外部と連携した事業を实践することができた。

【まとめ】

全教員が一回以上の公開研究授業を実施した。生徒アンケートにおいて、国語や数学の基礎教科に苦手意識をもつ生徒が増加しているため指導内容の工夫が必要である。生徒アンケートの結果を教職員全体で共有し、すべての生徒が学びの達成感や充実感が得られるように取り組んでいく。また、デジタル教育については、生徒及び教員が積極的に利活用し、協働的な学びが進んできた。次年度は更に推進することが課題となる。

プラン2【生活指導(生徒指導等)、安全教育の充実】 ◆生活指導

② 重点目標と方策

方 策	担当者→対象教員等	目標	10月状況	3月結果
1 学校生活等で指導上対応が難しい生徒に対して、迅速に校内支援委員会を実施し、必要に応じて、外部専門委員を活用しながら課題解決を図る。	生活指導部・支援部・特別支援教育コーディネーター及び外部専門員	校内支援委員会を年10回開催する。また、外部支援員と連携した対応(研修会含む)を5回以上実施	校内支援委員会5回実施済。会議にて外部専門員の助言を受けたケースは2件。	◎校内支援委員会10回の実施(臨時を含む)。適時に相談をし、学校としての対応ができた。
2 生徒が集団を意識し、規律正しく行動及び活動できる教育を推進する。(集団行動に関する指導)	主幹教諭、保健体育科→学部、学年、担任	4月及び5月で保健体育等の授業で集団行動の指導を行う。また、5月体育祭や他の学習で、生徒の主体的な集団行動の実施	各学年において4月に集団行動の指導を実施した。毎時間の授業で、集合・整列など継続的に取り組んでいる。	◎全学年において、適切に集団行動の指導を実施できた。また安全と規律的行動を他の学校行事に生かすことができた。
3 防災教育推進委員会を活用して、地域と連携した防災等危機管理体制を構築する。	主幹教諭、生活指導部→学部、学年、担任	6月までにBCP等防災マニュアルを見直し7月全校に周知	今年度用にBCP等を更新した。緊急時の対応について周知した。	◎警察署、消防署等の連携に加え、地域の自治会との連携を構築できた。
4 BCP(事業継続計画)など危機管理計画等緊急時マニュアルを更新し、西東京市と連携した福祉避難所、帰宅困難者等の受	生活指導部→全教職員	7月までにBCPの更新。7月宿泊防災訓練で実施	BCPの更新を実施。また、防災教育推進委員会で福祉避難所の開設等について共	◎登下校時の対応の見直しなど危機管理マニュアルの更新を行った。

け入れを想定した訓練を行う。			有した。	
5 宿泊防災訓練時に地域と連携した総合防災研修会を開催する。	生活指導部→2年担任	宿泊防災訓練7月実施	計画どおりに実施できた。	◎次年度は宿泊なしの訓練を実施する。
6 学校施設、教育環境、準備室等の点検・改善(老朽化対策、美化)を行う。	生活指導部、各学習部会→経営企画室→全教職員	生活指導部で月に1回以上安全点検。学校施設や教室環境の課題の整理	月1回の安全点検の実施、生徒による教室環境点検を実施している。	○生徒が主体となって教室環境の点検等に努めることができた。

【まとめ】

生徒が集団を意識した行動や活動では、多くの教員が意識的に進め、生徒が集団を意識し、主体的に行動や活動を行うことが多くなった。

防災教育推進委員会では、警察署、消防署等の連携に加え、地域の自治会との連携を構築することで、防災等危機管理体制の充実を図ることができた。有事の際には、地域と連携を密にし、生徒・教職員・地域の安全対策を図っていきたい。

プラン3【キャリア教育・職業教育の推進】 ◆進路指導・生活指導・学習指導

② 重点目標と方策

方 策	担当者→対象教員等	目 標	10月状況	3月結果
1 作業学習の授業改善を行う。(外部専門員等による作業学習のアドバイス)	作業学習班	12月までに作業学習において外部専門員等による5回以上の指導・助言	外部専門員に9回指導を受け、主体的な活動を引き出す授業に取り組んでいる。	◎外部専門員の指導・助言を70回受け、授業改善に生かした。
2 外部専門員等を活用したアセスメント(TTAP、職業準備性ピラミッド(田無版))を実施し、進路指導の充実を図る。	進路指導部→全学年	職業準備性ピラミッド(田無版)は全生徒実施 TTAPを生徒6名実施 アセスメントの実施により生徒の強みを明確化し進路実現を目指す	外部専門員を活用したアセスメント(TTAP)についての教員研修を行い、抽出生徒へ実施している。	○TTAPを6回実施し、抽出生徒についてのアドバイスを保護者・教員と共有することができた。就労準備性ピラミッドについては、就労選択支援の動向を見ながら今後方向性を決める。
3 作業製品の販売や活動場所を地域等校外に広げ、地域理解・社会参加・地域貢献の機会を増やす。	作業学習担当等	社会貢献等できる連携施設等場所の確保。連携施設での販売を年8回以上	まちテナ西東京にて定期販売を3回、べびくまにて喫茶、クラフト製品販売を各1回実施した。また、まちテナ西東京にて清掃活動を2回、新たにアスタ西東京にて清掃を1回実施した。	◎まちテナ西東京とべびくまで、計9回を達成した。今年度より、べびくまでの喫茶販売も開始した。まちテナ西東京、アスタ西東京での清掃活動は、7回実施した。

4 福祉就労、企業就労等、生徒の能力や適性に応じた多様な進路先を確保する。	進路指導部	福祉就労・企業就労を希望する生徒の福祉就労率・企業就労率100%	個に応じた進路指導を進めている。生徒の希望する就労に向けて取り組んでいる。	◎現場実習では、進路選択を支援することができ、92,5%の生徒が進路決定した。
5 企業と連携し、進路指導担当及び教員の専門性向上を推進するとともに、生徒、保護者への進路指導を充実する。	進路指導部、学部	4月以降、関係機関と連携し、年4回の保護者学習会を実施	教員向け進路研修会を2回、保護者向け進路研修会を3回実施。企業や福祉への進路保護者見学会を5回実施した。	◎保護者向け学習会を、テーマ毎に年間4回実施し、進路通信でも情報を発信した。
6 積極的に企業開拓し、進路先の選択肢を増やす。	進路指導部	企業開拓 100 社以上	約 80 社以上で、繋がったのは約 40 社。	◎企業開拓 100 社以上を達成した。
7 生徒のニーズに応じた企業に就労する。(企業就労率の向上を目指す。)	進路指導部、学部	企業就労率 30% 以上	10 月に入り、内定者が出始めている。	◎40 名中 14 名が企業就労を目指し、14 名全員の内定者が出た。企業就労率は 35%であった。

【まとめ】

作業学習の授業改善を外部専門員の助言を受けながら行ってきたことで、作業学習を中心としたキャリア教育の推進を図ることができた。また、作業製品の販売や活動場所を地域等校外に広げる活動では、新規の活動場所を開拓することができ、地域理解・社会参加・地域貢献の機会を増やすことができた。

プラン 4 【学校行事の充実と円滑な実施】 ◆特別活動

② 重点目標と方策

方 策	担当者→対象教員等	目標	10 月状況	3 月結果
1 生徒が主体的・意欲的に学習できる学校行事を推進し、学力の向上を目指す。	教務部→各学校行事担当→全教職員	各行事で意欲的に活動できる内容を計画する。	各行事に向け、学年を中心に事前学習を行い、生徒が意欲的に取り組むことができている。学校行事では生徒会を中心にスローガンを決め、生徒の主体的な活動が多く見られた。	◎体育祭、文化祭、宿泊行事、校外学習について、事前・事後学習も含めて、生徒たちが積極的に取り組むことができた。普段の授業と関連付けることで、意欲的に学習することができた。
2 体育祭や文化祭等、生徒や職員の安全を確保し、生徒の主体的に活動するなど組織的に運営し、推進する。	行事・生徒会部→全教職員	生徒、保護者等の満足度 80%	5月に体育祭を実施した。保護者からは好意的な感想をたくさんいただいた。学年種目、係活動など、生徒が主体的、積極的に取り組むことができていた。	◎文化祭では、舞台発表、展示、販売等の作業学習成果発表を計画的に進め、生徒たちが、主体的に取り組むことで生徒・保護者等からおおむね満足度を得ることができた。

3 校外学習、宿泊行事等では、安全で充実するように配慮した計画するとともに、安全な集団活動の取組みを実施し、生徒の主体的な活動を推進する。	教務部→学年→学級担任	引率教員、生徒の満足度 80%。	3年修学旅行、2年修学旅行を安全に実施することができた。充実した活動を行うことができた。2年生校外学習では、修学旅行の事前学習につながる学習ができた。	◎校外学習、宿泊行事を計画的に進め、安全に行うことができた。1年校外学習の行先について、より適切な場所の検討を継続する。
---	-------------	------------------	---	--

【まとめ】

体育祭や文化祭、校外学習や宿泊行事等では、安全で充実するように配慮をした計画をたて、全ての学校行事を実施することができた。多くの学校行事で生徒が積極的かつ主体的に活動する様子が随所で見られた。今後は学校行事をとおして、生徒が更に主体的・意欲的に学習できるように、実施方法や内容を更に検討し充実を図っていく。

プラン5【部活動の充実】 ◆特別活動、その他

② 重点目標と方策

方 策	担当者→対象教員等	目 標	10月状況	3月結果
1 いじめ、体罰、不適切な指導、不適切な言動等のない「部活動」を推進するための計画書を作成する。	部活動担当教員→学部→担当主幹	5月までに部活動の指導方針及び計画の作成	部活動連絡会などで情報交換し、共通理解のもとで実施している。	◎指導方針や計画を作成し、計画書に基づいた指導を行うことで、いじめ、体罰等のない部活動を実践した。
2 挨拶を適切に行い、ルールやマナーを守ることができる「部活動」を推進する。(他の児童・生徒の模範となる行動)	生活指導部→全部活動担当教員	5月までに部活動の指導方針及び計画の作成	部活動全体方針、各部活動実施要項に反映させていく。	○顧問間で共通理解を図り指導することで、他の生徒の規範となる行動がとれるようになってきた。

【まとめ】

各部活動とも、部活動全体方針と部活動実施要項を基に生徒の健康や安全面に配慮しながら、校内活動・校外活動を実施した。生徒は積極的に部活動に参加し、挨拶やルール・マナーを守り、技術が向上し、チームワークを育むことができていた。学校行事や日常の学校生活も同様に、生徒が主体的・意欲的に活動できる内容や方法を引き続き検討し、実施していく。また、生徒の進路実現のためにも、挨拶やルール・マナーを守る態度の育成にも努めていく。

プラン6【健康の保持・増進に向けた指導の充実】 ◆保健関係◆学習指導

② 重点目標と方策

方 策	担当者→対象教員等	目 標	10月状況	3月結果
1 新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症対策を徹底するとともに、コロナ後の対策を徹底する。	養護教諭→学年	1年間通して、基本的な感染症対策を徹底する。	感染症対策を徹底し、現在まで大きな感染症流行には至っていない。	◎基本的な感染症対策を徹底し、校内での流行を防ぐことができた。
2 健康の保持・増進に向けた指導及び研修を充実する。	養護教諭、保健・給食部、学校保健委員会→全教員	学校保健員会及び同委員会講演会を年間1回以	7月30日にダウン症をテーマに講演会を行った。	◎7月に講演会、3月に学校保健のまとめを行った。

		上実施		
3 生徒の「歯科指導」「性に関する指導」「肥満指導」を推進する。	養護教諭、保健給食部、進路指導部、保健体育科→学部	「性教育」は、1月までに各学年で授業実践を行う。	性教育推進プロジェクトで、授業実施に向けて準備を進めている。	◎全学年で研究授業を実施し、来年度の方向性を共通理解できた。
4 安全・安心な給食（食材の理解等）や食に関する指導を進めるとともに、食育の推進を図る。	栄養士・保健・給食部会・食育委員会	1年間、食育に関する計画を円滑に進め、日々の給食では給食便り「田無ランチ」を年間190回作成する。	給食がある日は栄養士が毎回給食便り「田無ランチ」を作成し、各クラスで活用している。	◎調理学習では、学年やグループによって回数に差はあるが、年間計画どおりに実施することができた。
5 食物アレルギーの対応に関する研修を実施するとともに対応方法を理解する。	養護教諭、保健・給食部→学部	4月当初に全教員向けの食物アレルギーの研修の実施	4月3日に食物アレルギー対応研修を行った。	◎年度途中で、アレルギー食の確認・配食フローチャートを作成することで、対応方法について理解が深まった。

【まとめ】

インフルエンザなどの感染症対策では、養護教諭中心に方針を示し、具体的に対策を実施することで流行を防ぐことができた。

保健体育科・養護教諭・進路指導部等が連携し、性教育の授業を実施し、「人との距離感」「性被害防止」などについて指導することができた。次年度は、年間をとおして、保健体育の授業において性教育を計画的に実施していき、卒業後、生徒たちが健全に社会生活を営むことができるようにしていく。

プラン7【地域等連携と地域貢献、センター的機能の充実】◆学習指導、学校運営

② 重点目標と方策

方 策	担当者→対象教員等	目 標	10月状況	3月結果
1 特別支援教育コーディネーターの地域の高等学校等への積極的な派遣をとおして、発達障害のある児童・生徒への支援等、地域の特別支援教育を充実させる。	特別支援教育コーディネーター	近隣の学校など年間20回の支援	高等学校訪問、通級見学、校内支援委員会への参加等で11回の支援を実施。	◎地区情報交換会・高校訪問や相談ケース支援・校内委員会への参加要請が増えた。20回の支援。
2 作業製品の販売や活動場所を地域等校外に広げ、地域理解・社会参加・地域貢献の機会を増やす。	作業学習担当等	定期的に社会貢献等できる連携施設等場所の確保。連携施設での販売を年8回	まちテナ西東京にて定期販売を3回、べびくまにて喫茶、クラフト製品販売を各1回実施した。また、まちテナ西東京にて清掃活動を2回、新たにアスタ西東京にて清掃を1回実施した。	◎連携施設での販売を9回実施し、今年度よりべびくまで喫茶販売を開始することができた。障害者週間イベントではポスターを掲示し地域理解活動を行った。

【まとめ】

都立学校発達障害教育推進エリアネットワークでは、引き続き近隣の都立高等学校5校の拠点校として特別支援教育コーディネーター2名で各校への助言を行った。地区情報交換会・高校訪問や相談ケース支援・校内委員会への参加要請が増えてきた。

プラン8【ライフ・ワーク・バランスの推進・働き方改革】 ◆学校経営・学校運営

② 重点目標と方策

方 策	担当者→対象教員等	目 標	10月状況	3月結果
1 時間外労働時間1か月45時間以内を目指す。(1日の時間外業務を約2時間以内)	全教職員	教職員の80%が時間外労働時間1か月の45時間以内となることを目指す。	4月から9月までの平均で、全教職員の87%が達成できた。	◎年間の平均で、90%の教職員が達成できた。
2 毎月1回程度の定時退勤を徹底する。	全教職員	全教職員の80%が定時に近い時間に退庁する。	計画的に業務を進めるため、月予定に定時退庁日を記載するとともに職員朝会等で周知し、徹底を図った。	◎月1回の定時退庁日以外の日にも、計画的に業務を進め、定時に近い時間で退庁する教員が多かった。
3 各学部、校務分掌等の各組織的な業務を整理(業務改善・業務縮減)し、個々の教職員の役割の明確化や業務のシェア化できる方針を立て推進する。	各学部主任、各分掌主幹・主任、経営企画室→全教職員	4月中に各学部、校務分掌等で方針を作成し、示す。	校務分掌では、主任教諭を各担当業務の主任に配置し、役割の明確化を図ることが定着した。	○職務内容に応じて担当者を明確にすることで、効率的に業務を進められるようになってきている。

【まとめ】

校務分掌では、主任教諭を各担当業務の主任に配置し、業務を組織的に整理し、業務内容を明確にすることで、より一層担当主幹と連携して業務を円滑に進めることができた。教員アンケートでは、業務量の偏りや比重、負担感が示されているが、昨年度よりも評価がよくなっている。好評価となった理由を分析し、今後の改善に活かしていく。教職員が生き生きと働き、教育活動を前進させることのできる職場環境を目指していく。

プラン9【組織力の向上】 ◆学校経営・学校運営

② 重点目標と方策

方 策	担当者→対象教員等	目 標	10月状況	3月結果
1 勤務時間及び勤務時間以外においても、コンプライアンスを遵守し、行動する。	全教職員	服務事故未然防止研修等や事故防止の取組み(定期券等の確認【年2回】等)を実施し、服務事故「0」を目指す	4月・7月に服務事故未然防止研修、7月にコンプライアンス研修を実施。定期券等の確認を5月・10月に、自転車加入保険の確認は5月に実施した。	○年間をとおして、服務事故未然防止に取り組み、教職員の事故防止に対する意識はおおむね良好である。しかし、通勤届に関する服務事故が1件発生した。
2 学校ホームページを計画的な更新や情報伝達メールを活用し、教育活動、防災等の情報を	情報教育部→担当主幹	ホームページ年間100回以上更新。情報伝達メー	計画的にホームページを更新し、情報発信できている。	◎ホームページの更新をできる教員を増やして定期的に更新

発信する。		ル年間 150 回以上		できた。
3 プール水等上水道の管理を徹底する。	経営支援室長→委託業者	毎日2回(朝及び夕刻)メーターの確実な確認	水泳指導期間中、毎日2回、経営企画室と連携し、確実にを行った。	◎毎日2回検針を行い、使用量の把握・管理を行い、課題はなかった。
4 個人情報紛失事故を未然防止のため、職員室、保健室、経営企画室等の机上进行整理するなど日々クリーンデスクを実行する。また個人情報の誤配布防止を徹底する。	全教職員	クリーンデスクの徹底と個人情報の紛失及び、誤配布「0」	職員連絡会や職員朝会等でクリーンデスクの周知徹底を図り、紛失等の事故は「0」件。	◎田無クリーンデスク7か条を基に机上整理を行い、個人情報紛失等の事故が「0」件。
5 主幹教諭連絡会での学校課題等の整理と改善策の検討を行う。	副校長、主幹教諭	毎週開催。毎週の企画調整会議の円滑な運営のための準備	水曜日5時間目実施している。企画調整会議の議題整理、準備を行っている。課題に挙がっている事項についても、随時、検討を行っている。	◎企画調整会議の議題整理、準備を行うだけでなく、課題となっている事項を、適宜、取り上げ、改善に向けての検討を行うことができた。
6 教職員の性暴力、セクシャルハラスメント、パワーハラスメントなどのハラスメントを根絶する。	全教職員	年間3回以上の研修の実施 教職員の意識改革の推進	研修を実施するとともに、教職員との面接時に確認を行った。	◎研修等の実施とともに、風通しの良い職場環境を整えた。

【まとめ】

今年度も職員朝会、職員連絡会、企画調整会議、服務事故防止研修等をとおして、服務事故未然防止を繰り返し周知し、注意を促した。しかし、通勤届に関する服務事故が1件発生した。再発防止にむけ、教職員への服務事故に対する意識が向上するように今まで以上に周知徹底を図り、改善に努めた。

【総合的なまとめ】

令和6年度は外部専門員の協力の中、自立活動の研究を進め、公開研究大会で全国の教育関係者に研究の成果を発表することができた。本校の自立活動の方向性を明確化し、生徒一人一人の成長につなげることができた。次年度は、自立活動の研究のまとめとして、研究活動を更に充実させていきたい。

令和6年度は学校実践の継承とさらなる発展に向けて、コンサルテーションやオン・ザ・ジョブ・トレーニング等の手法を組織的に取組むように努めた。チーム田無として教職員の一体化を図りながら、「すべての生徒たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現を目指す」ことを重要なテーマとしながら、生徒、及び教職員一人一人が「田無特別支援学校に入学して、そして勤務してよかった」と思える「魅力のある学校」目指し、日頃の授業、学校行事、部活動等で、主体的で意欲的に学習できたことは大きな成果がでたと感じている。

これまでの成果をさらに発展させるために、生徒、保護者、教職員が実践成果を共有し、振り返りを行うことで実践内容が精選され、根拠のある学校実践が展開されるものとする。保護者アンケートの自由記述や生徒の声を丁寧に聞き取りながら、これまで培ってきた学校運営をより強固で持続可能なものにしていく所存である。